

平成 24 年 2 月 24 日
小笠原諸島世界自然遺産科学委員会

希少植物 5 種にかかる「植栽」の検討について（報告）

関東地方環境事務所野生生物課

1. 検討経緯

- 「小笠原諸島の生態系の保全・管理の方法として「植栽」を計画するにあたっての考え方（平成 23 年 8 月小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 事務局）」（以下、「考え方」という。）に沿って、希少植物の植栽について検討するため、「小笠原希少野生植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会」を設置。

（検討委員）伊藤 元己 東京大学大学院総合文化研究科 教授 <座長>

西廣 淳 東京大学大学院農学生命科学研究科 助教

遊川 知久 独立行政法人国立科学博物館植物研究部 研究主幹

吉丸 博志 独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園長

（事務局） 関東地方環境事務所野生生物課

- 第 1 回（平成 23 年 11 月 14 日）：保護増殖事業対象 12 種について現状を整理し、植栽の必要性等を検討。このうち特に緊急性の高い 5 種について早急に検討結果を整理し、その他は引き続き検討することとした。
- 第 2 回（平成 24 年 2 月 13 日）：「考え方」の様式に沿って 5 種の検討結果を記録整理した。 ※ 検討記録は小笠原データセンターの関係者ページに掲載。

2. 検討結果の概要

	必要性等の整理	植栽方法別の検討結果
	野生株が 6 株、実生 4 株が残存するのみで、自然増殖は期待できず、自然災害等の阻害要因を排除することは困難。植栽は、本種の野生絶滅を回避し持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
	野生株が 1 株、植栽株が 3 1 株残存するのみで、近年自然結実は見られず、自然災害等の阻害要因を排除することは困難。植栽は、本種の野生絶滅を回避し持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の枝の圧条法による増殖 ○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖花粉を用いた人工授粉 ×域外増殖種子又は株の植栽
	野生株 8 株現存するのみで、株が小さく自生地は局所的。植栽は、本種の野生絶滅を回避し持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
	野生株が 3 株のみ、現存植栽株 66 株（その多くはウイルスに感染）、生育地が 3 カ所のみ。植栽は、本種の野生絶滅を回避し持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
	野生株 81 株のみで、生育地自体が地盤の脆い石灰岩壁面であり、台風等による崩壊等の影響を受けやすい。植栽は、本種の野生絶滅を回避し持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体から得られた胞子の散布 ○系統保存株から得られた胞子の散布 ×安定した生育適地へ自生個体の移植 ×域外増殖株の植栽

平成24年2月24日
小笠原諸島世界自然遺産科学委員会